

岡本天皇の御製歌一首

一五二一番

夕ゆふされば 小倉をくらの山やまに 鳴なく鹿しかは 今夜こよひは鳴なかず  
寝いねにけらしも

大津皇子の御歌一首

一五二二番

経たてもなく 緯ぬきも定めず 娘子をとめらが 織おるもみち葉は  
に 霜しもな降りそね

穗積皇子の御歌二首

一五二三番

今朝けさの朝明あさけ 雁かりが音聞ねききつ 春日山かすがやま もみちにけ  
らし 我が心痛あこころいたし

一五二四番

秋菽あきはぎは 咲さきぬべからし 我わがやどの 浅茅あさぢが花はな  
の 散ちりぬる見みれば